

公益信託世田谷まちづくりファンド

第24回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【1回目応募グループ】

<2-1 特定非営利活動法人 カラ>

- ・取組みの趣旨には共感した。良い取り組みだと思う。一方で計画には不明点が多く、団体内でどの程度、具体的に詰められているのか不安に思った。また50名×2回とのことだが、50万円という費用に対して、効果が十分か、疑問に感じた。
- ・本企画が一年目であるという点も考慮し、大幅の減額とはなりましたが投票させていただきました。すでにお話した通り、開催者が全てを提供する単発のイベント——それが“本物志向”の和のワークショップであってもなくても——の中には、まちづくりが芽生える可能性は極めて小さいと考えざるを得ません。「まちづくり」とは繰り返し参加者達が集いたくなるような継続的プロセスによって営まれるものであり、助成金のような外部資金への依存によってそれを維持しようとするのには自ずと限界がやってきます。この点にご留意いただき、参加者同士が結ばれる場づくりの一步を踏み出していただくことを期待します。

<2-2 紙風景>

- ・高齢者向けの活動を今度は子供たちに広げようというということで、素敵なワークショップになりそうですね。一緒に手伝ってくれる仲間を増やしてください。
- ・世田谷区の「風景づくり条例」には、「地域風景資産の選定」というメニューがあり、現在86箇所の地域風景資産があります。この特徴はそれぞれの資産に風景づくりの活動があることで、活動団体は区の主催する風景づくり交流会やその他のイベントなどでネットワークされています。紙風景の活動が、こうした地域の風景づくり活動とコラボレーションされることで、相乗効果が生まれ、新たに区内の風景に関心を持った人が生まれることを期待しています。

- ・既に定期開催をしているなどの実績があり、実現性には一定の力量を感じた。児童館や公共施設、地域共生の家など、既にある世田谷の地域資源やコミュニティの拠点で取組む点にも魅力を感じた。意欲も感じる。新聞のみならず、SNS も活用し活動に共感するコミュニティを醸成しながら、取組みそのものを発信することを意識して取組んで頂きたい。
- ・日常生活の中で見慣れている風景を紙工作にすることにより、見直し、新しい発見をし、愛着を持ってもらうというワークショップの発想は素晴らしいと思います。今年度は子供向けだけのようですが、高齢者の方に思い出の街並みを作っていただくのも、過去から未来へ続く街風景としてやっていただきたいと思います。

< 2-3 風と光と虹のパレード事務局 >

- ・子育て世代の親と子の交流・情報交換は、経験者としても様々な面で随分と助かりました。とても大事です。地域との関わりを蜜に持ちながら、子育てしやすい地域社会に発展すると良いと思います。PR に工夫の上、イベント参加者や講座参加者にアンケートを行っていただき、商店街等と連携して更なる活動につなげていただきたい。
- ・子育てが孤立化を避けるために音楽をコミュニケーションツールとして、子育て世代の親たちの交流の場を提供することは意義がある。また、働く母親たちを元気づけたり、「起業」をサポートしたりすることは、子育てしやすい街づくりへの貢献が期待できる。
- ・今年度の課題は活動にかかわるメンバーを増やすことではないですか。参加者とはイベントの後にどんな関係づくりが可能なのか、働くママたちの地域コミュニティづくりという課題に取り組むためにも、参加者が仲間になるためのプログラムをぜひ工夫してください。下北沢で活動する他のグループとのゆるやかな連携もすすめてほしいと思います。
- ・楽しそうなイベントであり、それなりに参加者も集められる気はする。一方で、イベントに集まったママ友たちが、本当にイベントを通じて繋がりを作れるのか、単なるお客さんとしてイベントに一度立ち寄っておしまいになるのではないかと、という懸念を感じた。取組みそのものに価値が無いとは思わないが、イベントの先への繋がりや仕掛けがなければ、単なる単発イベントで終わってしまう。その点をどう克服していくのか、十分考えて頂きたいと思った。

< 2-4 ミュージック&ネイチャー >

- ・音楽を通じたコミュニティづくりは素敵だと思います。参加者の輪が広がるように、いろいろな団体と連携していけるといいですね。積極的に声掛けをしましょう。
- ・音楽のプロフェッショナルが地域に貢献することは大変素晴らしいことだと思う。また活動現場の楽しそうな雰囲気は十分伝わってきた。一方で、参加者や賛同者をどのように募っていくのかという観点では、不明な点、不確実な点が多いと感じた。世田谷まちづくりファンドの活動助成団体の交流会などを十分に活用して頂きたい。

< 2-5 NPO 法人かぞくの杜 >

- ・区立小学校での学童保育と民間学童保育とでは異なる特別なニーズがあると思います。子どもにとっては継続的な活動が不可欠であり、ファンド助成以外の資金も獲得していかなければなりません。ファンド助成グループとの交流の中で、運営体制に地域の力を活用する手立てをぜひつかんでいただきたいです。
- ・空家等活用事業に選出され、あらたな一歩を踏み出す活動ということで、これからの活躍を期待しております。審査においては、収支計画の中でまちづくりファンドの助成可能な費目ではないものは外して検討させていただきました。
- ・具体的な対象者も存在しており、必要性も高いと感じた。ただ、長く続けなければならぬ活動であるため、今回の助成を梃子に、どのように事業としての継続性を高めていくのか、もう少し展望を教えてくださいと聞いた。
- ・どこの地域でも、どの年代でも地域で孤立している人が増えている気がします。そんな状況の中で貴団体の大きな家族のような場づくりの取組みは重要だと思います。今後のビジョンもしっかりと考えられているようなので、現在3人のメンバーを増やす努力をされてください。

< 2-6 おひるのかほり >

- ・下北の文化が好き。こうした動機から始まるまちづくりは素敵です。子育てをしていますが、堂々と芝居や音楽を楽しみにいけるという地域が、本当に豊かな地域だと思います。肩の力を抜いて、継続的に活動を広げていってください。

- ・個性ある街下北沢文化を感じさせる活動としました。駅前整備など、まちづくりが進む中、下北沢音楽祭などと連携して謝礼コストなどの縮減を図りつつ、ファン登録などで集客増につなげ、運営の安定化をはかっていただきたい。
- ・年間のイベント内容及び回数から、下北沢に根付いた活動を展開していることがよくわかり、評価できます。参加者の親子が他の親子との交流を通して子育ての孤立化を防ぐことにもなり、その活動は意義深い。また、活動を通して、下北沢の新しいコミュニティ造りが期待できる。
- ・ファンド助成は1年目の申請ではあるが、既に10回のイベントを重ねており、実行力には疑いのない実力を感じる。どんどん活動を広げて行って頂きたい。その上で、このおひるのかほりの活動の先に、何を目的としているのか、ぜひ今年度(=1年目)からじっくり考えて行って頂きたい。子どもは年齢があがり、親も年少期の子育てから思春期の子育てへとニーズが変化していく。その中で、この活動を今後どのように育て地域に根付かせていくのか、来年度の助成の際にはその考えを聞かせて頂きたい。

< 2-7 エコジカル・デモクラシー観測グループ >

- ・プレゼンテーションよかったですね。オリジナリティのある名刺を、コミュニケーションツールとして活用するアイデアも面白いので研究成果が楽しみです。
- ・公益信託の財産を、個別の活動だけではなく、まちづくり活動団体の繋がりを創るために使うという発想には、強く賛同したい。まちづくりファンドがもともと目指していたこととも重なり、まさに必要な取組みだと感じる。まちづくりファンドの助成先、トラストまちづくり、活動を支えて下さっている区民有志の方と十分コミュニケーションを深めて活動に取り組んで頂きたい。

< 2-8 桜んぼ塾 >

- ・まずはこれまでの皆さんの活動に敬意を払いたと思います。将来NPO団体をめざすとしたら、参考となる活動を積極的に取材してはどうでしょうか？とりくみのテーマや活動場所は少し異なりますが、一橋大学のKFや港区の芝の家などはよい事例だと思います。また、応援してくれる人を増やすためのメディアづくりにもチャレンジしてください。

- ・重要な社会課題に対して、大学生のみなさんが真摯に取り組まれている事にとっても感激しました。活動の需要が上がっていることや、受益者負担を見込みにくい内容であることから、助成の必要性を感じました。ただし、まちづくりファンドでは、永続的な助成ができないため、寄付収入を増やすなどのしくみの検討を視野に入れた活動にしていだければと思います。そのためには、寄付者に活動の内容・意義を伝えるツールが重要で、例えばその1つがパンフレットです。塾生募集パンフレットは拝見しましたが、応援者向けのものも検討されてはいかがでしょうか。インターネットの印刷屋では低いコストで紙質、画質等、質の高い印刷ができますので、コスト削減と質のアップが図れそうです。デザインやキャッチコピーなどが得意な人を取り込みながら、ツールを開発し、より応援したい人を増やしていただければと思います。
- ・地道だが今の世の中に必要とされる取組みだと思う。ぜひ継続して頂きたいし、取組むからには、継続する責任もある取組みだと思う。既に10年を越える活動を行っているとのこと、発表者のみならず、それを支える教員の方や先輩方も含めて、敬意を表したい。継続的な活動を行うために、学生サークルの形からどのように発展したらいいのか考えるそのための機会として、この助成期間を活用頂きたい。
- ・現代は格差社会と言われていますが、格差の無い社会にするには、まず教育の機会均等が必須であり、最も重要だと考えられます。それに12年間取組んできた貴団体は素晴らしいと思います。今後こども食堂や卒業生の場づくりなど活動を広げていくのなら、活動資金をどう生み出していくかも考えていってください。

< 2-9 ウルトキッズ 応援団 >

- ・近隣で問題意識を共有する仲間が集まり、まさにこれから活動を本格化しようというプロジェクト。開始当初は、周辺地域の理解も得にくく大変なこともあると思いますが、ぜひ、活動自体を楽しむ気持ちを忘れずに続けてください。風通しの良いチームのつくる遊び場は、良い空気が流れ、次第にファンが集まってくるはず。来年もぜひ継続できるよう、今年は色々なことにトライしてみてください。
- ・「遊び場づくりを通じた創造する子どもの育ちを支えるまちづくり」としたテーマを拝見し、子育てを楽しみながら、遊び場づくりを通じて親子の交流活動をしているのであろうと思います。児童館等を通じて、同じ思いで活動をしているグループに参加を呼びかけたり、地域の参加者の呼びかけで協力を得ながら、活動体制のより充実が図れると良いと思います。バザーなど運営費の確保とコスト削減で、継続した取組みを期待しています。

- ・子供の遊び場を上手く利用し、子供を「自分の責任で自由に遊ばせる」ためのサポート活動は子育て親子にとって必要であり、この活動は意義深い。また、子育ての情報交換の場となる「おしゃべりカフェ」や「サロン」、「講演会」等々は地域コミュニティーの活性化にも役立つ。
- ・世田谷で産まれた外遊びの活動が、世田谷区内でどんどんと広がっていることをとても嬉しく思う。取組む過程で、外からふらりと参加した人にどのように関わってもらうか、ぜひ工夫をし、その成果を来年度の報告会に参加されたら教えて頂きたい。取組む当事者間のコミュニケーションを密にするだけでなく、地域にどのように開いていくか、ぜひ試行錯誤して頂きたいと感じた。

< 2-10 世田谷楽しいコミュニケーショングループ >

- ・コミュニケーションをテーマに様々なプログラムを開催するというのはいいともいます。多くの人に参加していただけるような広報活動も大切かと。活動を通じて新たなコミュニティができるといいですね。
- ・地味とも言える地道な活動だが、確実に地域の方の役に立っていらっしやると感じた。しかし、はじめの一步部門からどのように活動が発展したか、いまひとつつかめない点が多かった。取組み自体に価値が無いとは全く思わないが、「まちづくり部門の助成先」としての適切性という観点から、もう一步、成熟した取組みを求めたい。

< 2-11 暮らしの中で和を楽しむ会、柏葉会 >

- ・昨年度から活動回数を増やすことで知名度がアップするとよいですね。対象となる参加者をしぼりこむことで、お知らせの方法を具体的に考えたり、企画準備もしやすくなります。その結果、多くの人に情報が広がるようになります。岡本民家園や次太夫堀公園などとの連携も視野に入れて考えてみてください。
- ・瀬田4丁目広場で活動するまちづくりファンドの助成団体は複数あり、活発な現場となっていることが伺えます。区の花「さぎ草」を愛する会やカタクリの会、それぞれが連携しあって盛り上がっていただけたらいいなと思います。広域に周知していくのか、周辺地域の参加を充実させるのか、リピーターを増やすのか？運営ボランティアとしての参加を増やすのか？活動への参加のレベルはいろいろありますが、これからどこを拡充させるべきか戦略を持つていくことが大事だと思いました。

- 活動をどのように、外に開いていくかが課題だと思う。参加者をどのように集め、共感者になっていただくのか、工夫して頂きたい。この内容だと、単なるサークル活動にし
か見えない。利用者負担で取り組めば良い、という意見に対して、どのよう応えるの
か、ぜひ考えた上で申請をして頂きたいと感じた。ひとつ前の団体同様、「まちづく
り部門の助成先」としての適切性という観点から、もう一步、成熟した取組みを求め
たい。
- 和室の無い家で暮らし、高齢者と触れ合う機会も無く育った人も増えているという現
代で、小坂邸という素晴らしい場で日本の四季の営みを伝えていこうとする貴会の活
動は重要だと考えます。今後は若いメンバーを積極的に増やして行ってください。